

# 立命館慶祥中学校・高等学校 2018年度 学校目標 シート

教育目標	「世界に通用する18歳」の育成		中期目標	①自己の存在について自己肯定感を持って生活できる空間としての学校。 ②基礎学力、持久的体力、高い教養、強い倫理観を利用して問題解決に当たることのできる能力を育成する学校。 ③ボランティアなどを発展させ、社会に貢献することのできる学校。 ④海外から日常的に多くの人々が訪れ、世界を学びの場として活用し、立命館学園におけるグローバル教育の展開を実践する学校。 ⑤保護者が、学校の教育方針と教育内容に共感、賛同、協働し、教員に安心して相談することができる学校。								
区分	A. 課題(上位目標)	B. 目標 (中位目標)	C. 自己評価	E. 具体的施策 (どのような方法で)								
教学課題	I	中高(大)一貫教育の成長モデルを確立する。	1	附属校の優位性を発揮した高大連携と、各種講演会等による豊かな人間性の育成。	(1)	学内進学者数「5割必達」を目指す。立命館アジア太平洋大学(以下、APU)には30名の進学を目指す。	B	①高3学年において、SPおよび他大コース生徒の進路指導の充実を図るなどして、学内進学者を増加させる。また、高1・2学年において、立命館大学およびAPUキャンパスツアーを実施するなどして、両大学への興味関心を喚起する取組を進める。 ②学年と英語科が連携し、TOEFLの早期取得について体制整備を含めて話し合うとともに、外部講師を入れた課外でのTOEFL講座を開講し、430点を目指す授業、500点を目指す授業を切り分けて実施する。高1では、TOEFL-IPTテストの早期取得について体制整備を含めて実施を検討する。さらに、中学校においては、中学終了時の英語検定準2級100%を達成することができるように計画を立てて実行する。 ③④高大連携推進予算を有効に活用し、高大連携部を中心として、立命館大学およびAPUへの学内進学者数を増加させるべく実効性のある取組を展開する。高大連携部が英語科および各学年と連携し、新TOEFL551講座(トップアップ講座)の積極的な活用を図り、国際関係学部JDプログラムおよびグローバル教養学部への進学を促進する対応を行う。 ⑤生徒会役員と学年主任による会議を新たに開催し、生徒会役員の自治活動を育てる試みを行う。 ⑥部活政策検討委員会の答申を受けて、年次計画をたて、クラブのあり方そのものを抜本的に見直す。				
					(2)	立命館コース生徒のTOEFLスコアについては、IPTテスト550点以上6人、500点以上20名を目指す。	A					
					(3)	立命館大学やAPUとの連携企画を実施する。	B					
					(4)	高大連携推進予算の実効ある活用を図り、両大学への進学動機の向上を図る。	B					
					(5)	生徒会活動や寮生による自治活動をととして、生徒の倫理観やモラルを育てるとともに、リーダーを育成する。	B					
					(6)	クラブ活動をととして、生徒の倫理観やモラルを育てるとともに、リーダーを育成する。	B					
	II	グローバル・多文化社会の中でSGHの活用を図るとともに、グローバルリーダーを育てる。	1	2	学力向上を通じて、生徒・保護者・社会から高い信頼を得る。	(1)	2019年度入試において「東京医50名」を達成するため、2018年度入試(現高3入試)で東京医50名を目指す。	B	①目標達成に向け、中高教員が生徒の高い志を醸成するとともに、学力伸張に向けた講習や個別指導を地道に実施する。予備校等で実施される研究会へ担当者が出席し、最新の入試や傾向と対策を把握し、受験指導や学習指導に生かす。 ②③進路部が各学年と綿密な連携を図り、中1から高3までを貫くSP指導の高度化を図る。 ④2020年新入試への対応プロジェクトチームを立ち上げる。現高1が対象となる、2021年度大学入試改革に基づく、新大学入試への対応は待たないである。新進路部主導で、このプロジェクトチームを進路部の中に立ち上げ、検討を行う。			
						(2)	高校では、進路部と緊密な連携を図り、着実な実績向上、進路講習の実施、徹底した進路指導を行う。	B				
						(3)	中学では、各学年1月実施のアドバンステストにおいて、東京医合格の指標となる、SS60以上50名を達成する。	B				
						(4)	論述・発表・討論に関わる各種コンクールでの入賞者を輩出する。	A				
						1	海外研修旅行を再検討し、グローバルリーダー育成に資する先進的なプログラムを構築する。	(1)		高校海外研修旅行のプログラムに新たに「課題解決型」の内容を取り入れ、共通課題に向けた協働の取組を実施する。	A	①高校海外研修旅行において「課題解決型」の内容を検討し、共通課題の解決に向けた協働の取組として、新たにTV回線などの利用により現地高校生との事前学習実施等を検討する。 ②中学NZ研修において、英語能力別のプログラムの検討を進め2014年度より一部実施したが、SPクラスを中心とした高い英語力の生徒のニーズに応える一層の検討を図る。 ③既存のコースの統廃合と新たなコースの創出など、2018年度以降の慶祥の海外研修について、研究部を中心として総合体系的に見直し検討を開始する。
								(2)		中学NZ研修のプログラム内容の充実を図り、英語力の向上を図る。	B	
(3)	高校において、新たな海外研修コース設定の検討を開始し、慶祥しかできないプログラムを構築する。	A										
(4)	姉妹校提携や姉妹都市間交流などの交換留学を活用するとともに、SSHおよびSGHの活用を図る。	A										
2	学校間交流・長期短期留学プログラムの充実を図り、異文化理解・コミュニケーション力向上を進める。	(1)	生徒の海外派遣について、長短期留学派遣者数195名、海外研修派遣者数485名と合わせて、680名を目指す。	A	①研究部が中心となり、長期・短期に関わらず、留学生の出入りが活発になるよう、AFS等海外留学団体との連携を密にして積極的な交流に努める。 ②既存の交換協定以外に学校間交流の充実を行うため、北海道庁等関係機関と一層の連携を図る。 ③外部講師を含めたTOELの対策講座を課外で実施する。 ④従来の姉妹校提携や姉妹都市間交流等の交換留学制度の一層の活用を促進する。また、SSHやSGHを活用し、タイ、サハリン、カナダ等との交流を推進する。							
		(2)	海外からの生徒受入れについて230名を目指し、生徒が日常的に世界を体験できる機会の拡大を図る。	A								
		(3)	英語指導方法の研究と英検・TOEFLなどの到達目標のステップアップを図り、留学の即戦力となることの出来る人材を育成する。	B								
		(4)	姉妹校提携や姉妹都市間交流などの交換留学を活用するとともに、SSHおよびSGHの活用を図る。	A								
3	立命館コースの特色講座を中心に、SGHへの対応化を図り、グローバルリーダー育成を目指す。	(1)	各特色講座にグローバル課題に即したテーマ・教材を設定し、SGHによる講座内容の充実を図る。	A	①各種特色講座にSGH申請に即した内容を取り込む。「観光開発」でのサハリンにおけるスタディツアー、「国際社会」でのウレシバクラブとの連携、「アジア学」でのNGOとの連携を行う。 ②「観光開発」「国際社会」「アジア学」の講座において、SGHの求める課題研究の在り方について研究を行う。							
		(2)	学校設定科目である「観光開発」「国際社会」「アジア学」について充実を図る。	B								
4	海外大学進学を促進するプログラムを充実させる。	(1)	2014年度に開催した「ハーバード・MIT研修」をより整備し実施する。	B	①年度当初慶祥の海外留学プログラムや海外大学進学についてのガイダンスを全学年対象に実施し、生徒・保護者へあらかじめ周知し、計画的に海外留学や海外大学への進学を促進する。 ②年度当初の海外進学説明会や高校履修登録説明会やプレエントランスディに「GGP」の説明会を開催し、早期から立命館大学やAPUの海外留学について説明を行う。							
		(2)	立命館大学国際関係学部JDプログラム、立命館大学グローバル教養学部に進学者各1名を目指す。	B								
5	SSHに基づくグローバルな理系人材の育成と、RU理系進学者の質的量的拡大。医学部進学生徒の拡充。	(1)	SSH基礎枠の取組を通じて理数教育を充実させ、理系の進学率を上昇させる。	B	①SSH基礎枠の取組目標として、1)科学に関する学力の向上、2)世界で活躍することができる能力の向上、3)科学を活用し社会に貢献する能力の向上について、指定期間中に取り組む。 ②SSH重点枠の取組目標として、1)国際共同課題研究、2)国際科学オリンピックメダル獲得プロジェクト、3)海外理数教育重点校とつながるプロジェクトについて、北海道内の高校生を対象に、北海道が高校生の国際科学教育の拠点として発展するための基盤形成を行う。							
		(2)	SSH重点枠認可校としてトップレベルの研究実践校としての評価を得る。	B								
III	正義と倫理観を形成する人間教育と豊かな個性を花開かせる高いレベルの課外活動の実践を追求する。	1	「立命科」やクラブ活動等を通じた人間力の育成。生徒会活動や課外での社会貢献活動を通じた正義と倫理観の醸成。	(1)	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に参加する生徒を100%とする。	B	①立命科において社会貢献活動を検討・提案するなどして、校内的に社会貢献活動醸成のための下地を作る。 ②生徒会執行部会を定例開催し、中高生徒会の安定的な活動のための指導を行う。					
				(2)	生徒会活動や寮生による自治活動を通して、生徒の倫理観やモラル教育を育てるとともに、リーダーを育成する。	B						
I	安全・安心して生徒が通える学校作りと、危機管理が行き届いた学校作り。	1	いじめ・体罰のない学校作り。	(1)	いじめや自殺等の重大事故を防止する取組を行う。	B	①中学では道徳・技術家庭科、高校では教科情報において行うとともに、学年でも機会ある度に取り上げ、未然防止に努める。また、スクールカウンセラーとの連携による教育相談をより充実させ、情報連携が必要な場合は、チーム会議を開催する。 ②立命館慶祥中学校・高等学校いじめ防止等対策基本方針に基づき、「いじめ」の早期発見を可能にするとともに、「体罰」を生まない集団づくりを行う。 ③学校行事により感動と達成感を共有できる生徒を育て、生徒の個性や多様性を認め合う雰囲気づくりを担任や学年を中心に醸成する。					
				(2)	『立命館憲章』にある正義と倫理を持った生徒を育てる教員への啓発と学びを進める。	B						
				(3)	合唱コンクールや立命祭などの学校行事において、困難や軋轢を乗り越えさせる。	B						

管理運営課題	2	執行部・運営会議（ミドルリーダー）の危機管理能力と意識の向上。	(1) 執行部や運営会議メンバーが危機管理能力を形成し、防火管理者取得やリスクマネジメント研修などへの参加を促す（50%以上の参加率を目指す）。	B	①防火管理者講習への参加を運営会議メンバー全員に求め、メンバーの100%取得を目指す。 ②教育・研修センターの協力を得て、ミドルリーダー研修を実施し、運営会議メンバーの能力の向上を図る。
			(2) 慶祥ミドル・リーダー研修を今年度2回実施し、運営会議メンバーのミドル・リーダーとしての能力を向上させる。	A	
	1	中高入試体制の強化と寮政策の検討。	(1) 2019年度入試においても、2018年度同様、中高定員を充足させる。	A	①リエゾンセンターが先頭に立ち、新規の塾開拓や新規の中学を開拓し、地方生を集め寮の充足率を向上させる。 ②執行部、入試部が一体となって塾訪問、中学訪問を実施し、優秀生徒の獲得に努める。 ③学校案内パンフの刷新を図り、オープンキャンパスや学校説明会、海外における説明会、三越での説明会等、様々な入試広報活動を展開する。
			(2) 生徒募集活動の安定的運営体制を構築する。	A	
II	2	慶祥教育を前進させる学校ガバナンスの改革	(1) 執行部ガバナンスの更なる民主的運営の確立と学校方針執行の推進を行う。	B	①教員が確実に4週8休を保証できる時間割を編成し、休日出勤の際の振替休日が完全に取得できるように執行部による休日取得管理を徹底する。 ②校務分掌の見直しを図り、教員が教育・生徒指導・学級運営に集中できる体制を整備する。 ③教員貸与のパソコンを活用して教員会議資料のペーパーレス化を図る。また、試験期間中の教員会議は原則廃止し、全教員が採点、成績処理に専念できる業務環境を作り出す。さらに、月1回程度の教員会議の60分設定を実施する。 ④総務部の業務の一部を事務室で担当する。また、入試部、リエゾンセンター、進路部、寮務部、生徒部を中心に、各分掌に職員の担当者を付け、分掌会議に参加するなど、教職協働を追求する。さらに、教務事務のクレオテックへの委託化を進める。
			(2) 校務分掌体制や諸会議のあり方の検討と組織整備体制の改善を図る。	B	
			(3) 教員会議の効率的運用を目指して、教員会議資料のペーパーレス化、時間短縮を図る。	A	
			(4) 事務室との教職協働の検討。	A	
その他	1	厳正・的確・迅速な処理	(1) 予算の重点化の追求。	B	①予算の重点的執行を行う。 ②予算執行状況の定期的な確認と点検を実施する。また、経費削減・コスト感覚の涵養を図る。 ③事務室業務、総務部業務、教務部業務の一部外部委託を円滑に進める。
		(2) 管理運営経費の点検と経費削減の品目の確認。	B		
		(3) 学校事務の効率化を図るために、分掌業務、事務室業務の外部委託化をさらに進める。	A		
達成状況	<p>①学内進学の高制度化 ・学内進学は120名（立命館大学106名、立命館アジア太平洋大学14名）40%となり、目標の5割は達成できなかった。 ・TOEFL ITP®テストについて、550点以上は9名達成、500点以上は25名達成と目標を大幅達成した。</p> <p>②「東京医50」の実現 ・4月3日現在、東京医28（東大0、京大2、医学部医学科26）となり、目標値である東京医50には到達できなかった。</p> <p>③グローバル教育・サイエンス教育の推進 ・長短期留学派遣者数は209名となり、過去最高を大幅記録した。また、海外研修を含めた海外派遣者数は676名となり、過去最高となった。 ・海外生徒の受入は273名となり、昨年度より大幅に増加し、過去最高を記録した。 ・SSHについては、今年度、基礎校第2期2年目、重点校2年目、重点校は指定校全国17校のうち、私学は慶祥のみとなった。重点校の柱の一つである「国際科学オリンピックメダルプロジェクト」については、2年間で4回の夏冬のキャンプを開催し、慶祥生をはじめ道内からの中高生を計225名集めた。本校からは、今年度、高1が国際科学オリンピックの地方選抜を勝ち抜いて最終選抜に駒を進めたが、惜しくも日本代表には手が届かなかった。重点校のもう一つの柱である「国際共同課題研究」については、従来のシンガポールのNational Junior College (NJC) との交流に加え、昨年度から始めたタイのPrincess Chulabhorn Science High School Pathumthaniと協定の締結を行い、今年度新たにインドネシアのBudi Mulia Dua International High Schoolとも協定の締結を成し得た。 ・SGHについては、採択4年目となり、昨年12月、東京国際フォーラムにおいて開催されたSGH全国高校生フォーラムにおいて、立命館慶祥の生徒4名が「アイヌの伝統を知る～教育によるアイヌ文化の伝承活動」をテーマに掲げ、アイヌ文化を学校教育に取り入れることがアイヌ文化の伝承につながると提案してポスターセッションの最優秀プレゼンターに選ばれ、文部科学省から文部科学大臣賞（第1位）を獲得した。</p>				
改善策	<p>①学内進学の高制度化 ・引き続き「5割必達」を目標とする。同時に学内進学者の「質」の高制度化が求められている。TOEFLスコアとともに大学入学後のGPAを向上させる取り組みを行う必要がある。</p> <p>②「東京医50」の実現 ・中高教員が生徒の高い志を醸成するとともに、学力伸張に向けた講習や個別指導を地道に実施することが必要である。SP教科担任・学年主任等による「SP会議」の積極的な活用を行い、進路部による先を見通した緻密な学力分析に基づき、学年団と進路部が緊密に連携して確実な成果を上げることができるよう、慶祥SP指導体制の一層の充実を図る。</p> <p>③グローバル教育・サイエンス教育の推進 ・英語教育の一層の充実を図り、留学生の派遣および受入や海外大学への進学を促進し、世界で活躍する人材を育てることが求められている。世界を学びの場として活用できる学校、海外から日常的に多くの人々が訪れる学校、そして、立命館学園におけるグローバル教育の展開を実践する学校となるべく、取組を図る。 ・SSH基礎校および重点校の取組の加速化を図る。基礎校においては、1)「科学に関する学力向上プログラム」の開発と実践、2)「世界で活躍する能力向上プログラム」の開発と実践、3)「科学を活用し社会に貢献する能力の向上プログラム」の開発と実践を研究課題として設定している。また、重点校については、1)国際共同課題研究、2)国際科学オリンピックメダル獲得プロジェクト、3)海外理数教育重点校とつながるプロジェクトについて取り組むこととしている。今後、基礎校および重点校のこれらの具体的な取組について、確実に実践していくこととしたい。</p>				
学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	委員長：渡辺泰弘（立命館慶祥中学校・高等学校保護者会前会長） 委員：支部英孝（江別市教育委員会委員長職務代理）、萩原国彦（北海道旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部長）＜～10月＞、林雅子（北海道旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部長）＜11月～＞、小笠原正浩（立命館慶祥中学校・高等学校教育振興会会長）、竹内彪（立命館慶祥副会長）、小島敏夫（学校法人立命館常務理事）、岩崎成寿（同一貫教育部部長）、久野信之（立命館慶祥中学校・高等学校校長）、江川順一（同副校長） 事務局：石井洋（同事務長）			
	委員会開催日程 主な議題	＜第1回＞2018年5月11日（金）10:00～11:30 議題：①2017年度学校総括について、②2018年度学校方針について、③授業参観とその評価 ＜第2回＞2018年12月7日（金）9:30～11:00 議題：①2017年度前半期の学校の取り組み状況について、②授業参観とその評価			
	評価、改善事項	＜第1回＞「2017年度立命館慶祥中学校・高等学校教育の総括」および「2018年度立命館慶祥中学校・高等学校の重点課題」について学校より説明を行い、授業参観を行った後、各委員の方よりご意見を伺った。卒業論文の成果を外部に発信していく取り組みに対する評価、双方向授業に対する評価等をいただいた一方で、運動系に比べて文化系のクラブの情報発信も積極的に行うよう要望もいただいた。 ＜第2回＞「2018年度前半期の学校の取り組み状況」について学校より報告し、授業参観を行った後、各委員の方よりご意見を伺った。授業参観を行った感想としては、生徒の授業に対する積極性の高さ、先生とのコミュニケーションの取り方、生徒たちに考えさせ、話させる授業、生徒それぞれの目標に向かって進んでいくような授業内容等に高い評価をいただいた。また、2018年9月の北海道胆振東部地震の被災生徒に対する学費減免の取り組みについても高い評価をいただいた。			